

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	学校名	岐阜県立吉城高等学校			
校長名	下平 貴昭	対象学年	1、2、3年生	人数	140名	
活動名	英語観光案内ボランティア	時間数	約400時間	継続年数	3年	
題材	<p>1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） []</p> <p>② 歴史（出来事・<u>史跡</u>・先人・その他） [古川町の史跡等の紹介]</p> <p>③ 文化（芸能・芸術・民話・<u>風習</u>・その他） [さるぼぼの調査と紹介]</p> <p>④ 地場産業（農業・水産業・<u>伝統工芸</u>・その他） [河合町山中和紙の紹介]</p> <p>⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [古川祭での英語ガイド]</p> <p>6 その他（ ） []</p>					
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> 英語でふるさとの魅力を発信することを目標に、授業で会話を円滑に行う表現練習を盛り込むなど、「発表すること」に重点を置いたアウトプット活動を取り入れる。 企画の段階から飛騨市役所観光課や観光協会と連携を密にし、地域と高校とのつながりを強くすることで、古川祭以外の地域のイベント（きつね火まつり、三寺まいり等）において生徒が活躍する場面を設定する。 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「書くこと」「話すこと」について適切に評価するための「Performance Test」の一つとして、本活動を位置付けることにした。 					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の重要無形民俗文化財である「古川祭」や古い町並み等の観光、「さるぼぼ」に見られる風習や「山中和紙」などの伝統工芸などを詳しく調べることで、郷土愛を育む。 海外からの観光客が多い土地柄を生かし、授業で学んだ英語を使って、積極的に地域に関わろうとする意欲や態度を育成する。 生徒が英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報を適切に伝えるためのコミュニケーション能力を養う。 <p>2 活動の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「さるぼぼ」の起源やその風習及び古川の魅力を調査 ②日本語と英語を併記した「さるぼぼ」紹介カードを作成（山中和紙を使用） ③飛騨市観光協会講師による、古川祭や外国人観光客とのコミュニケーションについての講義 ④道案内と古川の魅力や「さるぼぼ」の紹介を効果的に伝えられるよう、ペアでの英会話練習 ⑤古川祭で「さるぼぼ」紹介カードと「さるぼぼ」キーホルダーを英語で説明しながら配布 ⑥古川祭で英語ガイドスタッフとして作成した地図を配布し、観光案内ボランティア活動を展開 ⑦地元中学生の活動参加をペアになってサポート ⑧きつね火まつりで英語ガイドスタッフとして、観光案内ボランティア活動を展開 <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に町に繰り出し、飛騨市観光協会の職員と連携することで、祭りの歴史や地域の魅力についても学び、異なる年齢層の人と話す貴重な体験となった。 河合町の山中和紙を作る職人が、今ではほとんどいないことを知り、伝統工芸を継承することの大切さと難しさを知ることができた。 地元の良さを改めて気づいたのと同時に、地域について知らないことが多いことにも気づいた。 英語で地域の魅力を発信するためには、英語学習はもちろん、自分と地域との関わりを意識して学習していくことの重要性を感じた。 <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な言語の使用場面を設定することで、普段学んでいる英語が、実際にコミュニケーションの道具として使えるという経験が自信につながり、英語学習への意欲が向上してきた。 広報ひだ、新聞各紙（中日、岐阜）等の取材を通して、自分たちにも地域活性化に貢献できる役割があるということ意識するようになった。 						